

「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究

報 告 書

令和4年10月27日

大 崎 市

目 次

はじめに	1
1. 「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究の概要	2
1. 1 共同研究の目的	2
1. 2 専門家会議の位置付け	3
2. 大崎市鹿島台地域の特性	12
2. 1 大崎市の概要	12
(1) 大崎市の現状	12
(2) 大崎市の魅力	26
2. 2 鹿島台地域・吉田川の水害特性	32
(1) 吉田川流域および河川の自然特性	32
(2) 吉田川の水害特性	37
3. 鹿島台地域における水害とまちづくり	38
3. 1 鹿島台地域の水害と治水対策	38
(1) 治水対策の沿革	38
(2) 水害の歴史	39
3. 2 昭和61年8月洪水と「水害に強いまちづくりモデル事業」	40
(1) 昭和61年8月洪水の概要	40
(2) 「水害に強いまちづくりモデル事業」	42
3. 3 令和元年東日本台風による災害と鹿島台地域	45
(1) 令和元年東日本台風による鹿島台地域の状況	45
(2) 応援復旧や生活・生業の再建に向けた動き	50
3. 4 令和元年東日本台風にみる「水害に強いまちづくり」	55
(1) 「水害に強いまちづくり事業」の効果と課題	55
(2) さらなる「水害に強いまちづくり」への道筋	58
4. 「(仮称)新・水害に強いまちづくり」の策定	59
4. 1 「(仮称)新・水害に強いまちづくり」で提案する施策	64
(1) 吉田川堤防の決壊リスクを低減させるために	64
(2) 堤防決壊による氾濫が発生しても早期に普段の生活を取り戻すために	64
(3) 大規模な内水氾濫が発生しても早期に普段の生活を取り戻すために	69
5. 今後の取り組み	72
5. 1 「(仮称)新・水害に強いまちづくり」の推進に向けて	72
5. 2 「水害に強い地域のあり方」ワークショップの開催	73
(1) 「水害に強い地域」の形成に向けて	78
(2) 誇れる郷土の価値を高める安全・安心の向上	79
(3) 地域の全員で取り組む「水害に強いまちづくり」	81
おわりに	83

はじめに

旧品井沼とその周辺の低平地域からなる大崎市鹿島台地域は、古くから水害に悩まされてきた地域であり、先人達の英知と努力により水害と闘い続けてきた地域である。

堤防の決壊リスク低減に向け、今後も計画的な河川整備の推進が不可欠であるが、整備には長期を要し、当然整備途上で河川的能力を超える洪水が発生することは十分起こり得る。また、整備が完了したとしても、その能力を超える洪水が発生することを否定できない。

そのため、河川整備と並行して「堤防が決壊しても、被害を軽減し地域の回復力を高めていくための対策」を推進していかなければならない。

特に、昭和 61 年 8 月水害、令和元年東日本台風水害のように、ひとたび吉田川の堤防が決壊すると広範囲に氾濫水が拡散し、最終的には大水深かつ長期にわたり巨大な浸水域を形成する大崎市鹿島台地区などの地域においては、その対策はことさら重要である。

この共同研究報告書は、幾度も過酷な水害を経験してきた大崎市が、令和元年東日本台風水害を契機に、地域の視点から抜本的な水害対策のあり方を検討するため、防災活動支援を行っている(一社)東北地域づくり協会と3年間にわたり共同で研究し、その成果をとりまとめたものである。

本研究にあたっては、ワークショップの開催等により地域の意向を把握するとともに、「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議を設置し、治水の専門家からの意見を頂きながら進めてきた。

本報告書では、大崎市等において昭和 61 年 8 月水害を契機に実施された「水害に強いまちづくり」の考え方と、新しい「流域治水」の理念を踏まえ、地域による主体的発意として「(仮称)新・水害に強いまちづくり」の推進を提案している。

大崎市は、「(仮称)新・水害に強いまちづくり」の趣旨について、流城市町村はもとより、流域の多くの住民から理解が得られるよう努力していくとともに、国、宮城県に対し、水害に負けない強靱な地域社会の実現に向けた施策の強力な推進と積極的な支援を求めている。